

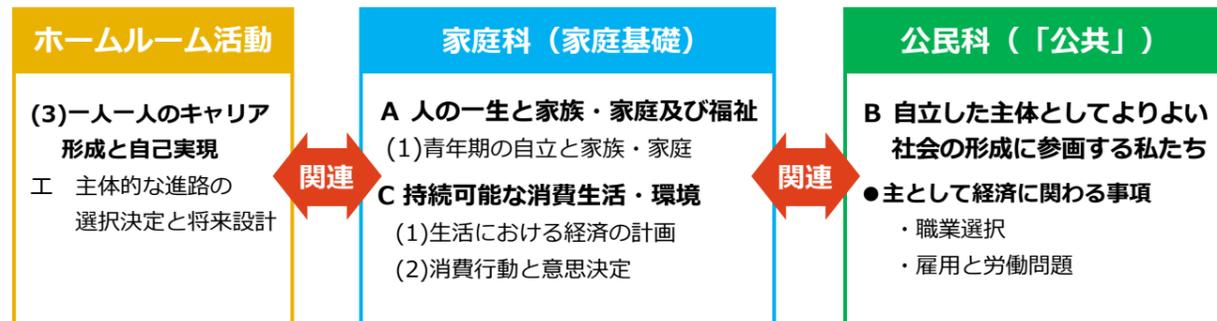
一人暮らしをしていない高校生にとって、生活における経済管理や計画を自分の問題として考えていくことは難しい。ここでは、家庭科の「青年期の自立」と「消費生活」を関連付けて、「生涯を見通した生活における経済の管理や計画」を考えさせる単元を構成し、それをホームルーム活動で自分の将来について考え、進路選択する時期に合わせ、公民科とも連携を図るとともに、銀行職員を活用し学びを深めた実践を紹介する。

POINT 1 ホームルーム活動・公民科との関連付け

生徒の進路決定の時期に、「職業選択」や「雇用と労働問題」の学習と関連付けて深める

ホームルーム活動と「公共」での学習と関連した年間指導計画を立案

「C 持続可能な消費生活・環境」についての単元『生涯を見通したどんな生活設計をする？』は、生徒が自分の進路を決める第一歩である文理選択に合わせ、1学年の2学期に実施。「公共」の経済についての学習と時期を揃えて年間指導計画を立案。特に、「職業選択」「雇用と労働問題」について学習しながら、「自分がどのように自立して生きるか」という生涯を見通した生活における経済の管理や計画について、社会との関わりの視点を踏まえつつ、具体的・主体的に考えていけるよう工夫している。



実践者に聞く！エピソード紹介

●「働いている自分の姿」をイメージさせ、自分事として社会を捉えさせる

これまで「消費生活」の学習内容だけで授業をしていた時は、税金や社会保障などの話をしても、生徒はなかなか自分の問題として考えることは難しく、ピンときていない様子でした。他方、教科書には、給与明細・求人票、奨学金など生徒に関係が深いものやイメージがわかりやすいものが増えてきたという印象をもち、これを「人の一生」の「青年期の自立」を学習する際、自分の進路と重ねて扱えないかと考えました。本校では、生徒が文理選択をするのは1年生の2学期です。そこに合わせ、学年のホームルーム担任とも連携して実践することにしました。また、公民科の先生とも相談し、時期を合わせて「公共」の経済の学習で「職業選択」「雇用と労働問題」を扱っていただきました。生徒たちは、具体的な職業や働いている様子を言葉にしながらか「自分がどのようにして自立して生きるか」をイメージして、自分の経済の管理や計画を考える姿が見られました。

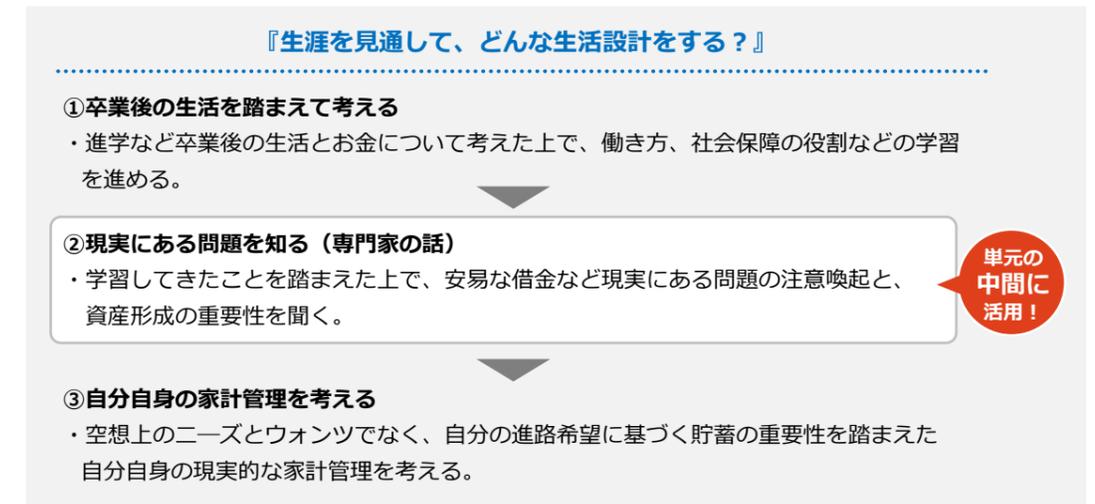
POINT 2 専門家の活用 — お金の専門家が現実を語る

今、社会にはお金についてどんな問題があるのか、日々、人々はどんなトラブルに巻き込まれているのか……銀行職員に現実を伝えてもらう

銀行職員が現実を語る「高校生に一番気をつけてほしいこと」

単元の導入は、「卒業したらどんな選択肢があるのかな？」という問いかけで、生活設計の学習を自分の問題として捉えさせることから始めた。進路とお金について考えた上で、働き方、社会保障の役割などの学習を進め、「契約の重要性」や「消費者保護の仕組み」について学習する場面で、専門家の説明を取り入れた。毎日お金を扱う銀行職員から、若い年代に被害が増えている悪徳商法や奨学金、先取り貯蓄について取り上げながら、「成年となる18歳、高校生に一番気をつけてほしいこと」を直接語ってもらった。生徒は「しっかりと自分が考えなければならない」と実感を強めた。

【学習の流れ】



実践者に聞く！エピソード紹介

●単元の流れから、「今、特に増えている問題」について注意喚起を依頼

銀行職員が予定していた話す内容は、もともと銀行が提供するパッケージ化されたプログラムとして決まっていたのですが、『生涯を見通して、どんな生活設計をする？』という本単元での学習に役立てるため、特に次の内容について追加して話してもらうよう依頼しました。

- ①教科書に掲載された「奨学金」と関連させ、借金についても説明してほしい。
- ②近年増えている新しい悪質商法などについて、具体的に説明してほしい。
- ③クレジットカード・リボ払いについては、高校生にわかりやすい説明でお願いしたい。

最新の問題などについては、教員が知らないことも多く、専門家にサポートしてもらいたいところです。一方で、「高校生にわかりやすい説明」については、教員の方が専門です。協力してもらう外部機関の方には、事前に説明資料を見せてもらえるように依頼し、生徒の実態に応じた講話となるよう、事前調整を心掛けています。

入学

進路選択

経済

月	単元
4	生涯の生活設計
5	食生活と健康
6	衣生活と健康
7	
8	ホームプロジェクト
9	青年期の自立と家族・家庭
10	持続可能な消費生活・環境
11	子供の生活と保育 高齢期の生活と福祉 共生社会と福祉
12	
1	
2	住生活と住環境
3	

■単元の目標

【知識及び技能】

生涯を見通した自立した生活を営むために、必要な家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、自分に必要な生活情報の収集・整理が適切にできる。

【思考力、判断力、表現力等】

生涯を見通した自立した生活設計に必要な情報を収集・整理し、自分の将来の自立に向けた計画についての問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯を見通した自立した生活設計に向けて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、ふりかえって改善したりして、将来の自立した生活の充実向上を図るために実践しようとする。

■単元計画

時数	学習内容
7	<p>●単元を通して考える問いの提示 『生涯を見通して、どんな生活設計をする？』</p> <p>卒業したらどんな選択肢があるのかな？ ・卒業後の進路（進学、就職……）</p> <p>進学したらお金はどうなるかな？ ・学校の種類と必要な費用、奨学金、アルバイト</p> <p>どのような働き方があるかな？ ・正規・非正規雇用、不本意な非正規雇用 ・育児休業</p> <p>社会保険って何？ ・給与明細の見方 ・社会保険、税金、可処分所得、非消費支出</p> <p>社会保険料は働き方で違うの？ ・働き方と社会保険料の違い</p>
	<p>銀行職員が「現実にある問題」を語る ★専門家の活用 ・ローン（奨学金）、クレジット、先取り貯蓄 ・名義貸し、フリマアプリなどのトラブル ・信用の大切さ、契約の大切さ</p>
3	あなたは、どんなことにお金をかけたい？ ～赤字にならないよう、家計管理をマスターしよう～ ・家計の構造
3	消費行動と意思決定（C(2)）
3	持続可能なライフスタイルと環境（C(3)）

生徒の進路選択のタイミングに合わせて単元を設定。導入の問い「卒業したらどんな選択肢があるのかな？」に続き、「進学したらお金はどうなるかな？」と問いを投げかけ、進路と生活における経済管理や計画を関連付けて考えていく学習を始める。

「自分は、どんな働き方をする？理由は何？」と問い、収入や必要な費用などの金銭面の違いを理解した上で、多様な生き方について、自分の進路と重ねて考えさせる。

単元を通して「必要なお金」について具体的にになってきた段階で、銀行職員が「現実にある問題」を語る機会を設定。消費者被害について、自分の問題として捉えさせる。

単元の終わりに、「家計管理をマスターしよう」をテーマに、一人暮らしの場合、家族を持った場合など、それぞれの生活設計について自分なりに考えるワークでまとめさせる。